

第49回衆議院議員総選挙を終えて、いま感じていること

医療法人社団 健育会 理事長 竹川 節男



10月31日に第49回衆議院議員総選挙が行われました。現在、新型コロナウイルス感染症対策を始めとし、日本の財政は非常に危機的状況に立たされています。今回、私が注目していたのは、各党の政策を国民がどう受け止め、答えを出すかでした。結果をふまえて、医療従事者として、また経営者として感じたことをお話しします。



10月8日に発売された『文藝春秋』11月号にて、財務事務次官・矢野康治氏の寄稿が掲載されていました。タイトルは「事務次官、モノ申す—このままでは国家財政は破綻する—」。選挙を控えた各党の施策ビジョンに言及しつつ、国の財政危機の深刻さを訴えるものでした。私は非常に勇気ある行為と受け止めました。

今回の選挙では、消費税引き下げや給付金など、いわゆる「バラマキ」政策によって民衆の支持を得ようとする動きも見られましたが、そのようなお金はどこにあるのか。今、必要なのは根本的な構造改革です。国が存続するために本当に必要なことは何か—結果として、国民はしっかりと将来を考えていました。希望の持てる選挙だったと思います。

我々健育会グループが目指すのは「光り輝く民間施設」です。今回の選挙を取り巻く情勢を見て、改めて考えることがありました。

私は旧ソ連が崩壊するさまも目の当たりにしました。国の財政が破綻することなく健全であることによって、初めて「医療」「福祉」は成立します。国の資金は無限ではなく、無駄には使えません。当然、医療も例外でなく、効率よく使わなくてはならない。そのためには、民間施設が持つ英知によって、効率的かつ質の高い医療を提供しなくてはなりません。これは、まさに当グループが掲げる理念です。



良い医療・サービスを提供するために経営は不可欠です。健育会グループの財政は、補助金など国に頼るのではなく、あくまでも私たち自身が効率的な運営をすることによって生まれた対価です。社会のための活動をしながら、そこで得た資金をもって、さらにレベルの高い医療として社会に還元する。近年、よく耳にする、CSV（クリエイティブ・シェアード・バリュー：Creating Shared Value）—企業は、社会的価値と経済的価値を生み出すために存在している—につながると思います。

国民は政府が思う以上に、しっかり国のことを考えていることが明確になった今回の選挙結果。日本の将来に期待を持てる選挙であったと感じています。